

**サーリーフ・リベリア共和国大統領の訪日に際する
日本国とリベリア共和国の共同声明（仮訳）**

1. エレン・ジョンソン・サーリーフ・リベリア共和国大統領は、安倍晋三内閣総理大臣の招待により、東京で開催される「女性が輝く社会に向けた国際シンポジウム」(World Assembly for Women (WAW! 2015))に参加するため、2015年8月26日から29日までの日程で日本を訪問した。
2. 安倍総理とサーリーフ大統領は、2015年8月27日に東京において二国間会談を行った。会談冒頭、安倍総理は、大統領就任以降5度目となるサーリーフ大統領の訪日を喜ばしく思う旨述べた。両首脳は、二国間及び多国間の各種外交機会における両国ハイレベル間の頻繁な対話を通じ、長年にわたる両国の友好関係及び緊密な協力が近年一層強化されていることを歓迎した。
3. 両首脳は、社会の様々な分野において女性の参加を確保することの重要性について認識し、女性の活躍促進のための具体的な努力と両国の協力を継続することで一致した。安倍総理は、アフリカ初の民選女性国家元首であり、平和構築と女性の地位向上への貢献によりノーベル平和賞を受賞したサーリーフ大統領が、日本政府の招待に応じ、WAW! 2015の基調講演者という重要な役割を果たすことへの謝意を表明した。サーリーフ大統領は、日本による「すべての女性が輝く社会づくり」に向けた国内外での取組を賞賛した。
4. 両首脳は、両国関係の深化に向けて一層取組を強化する決意を表明した。両首脳は、女性は様々な障害に直面しているものの、世界経済を支える存在であり続けていると認識し、女性の社会参加に向けた協力とパートナーシップを強化することを確認した。両首脳は、特に以下の分野で連携・協力していくことを再確認した。

I. 保健システムの再構築・強化

5. 両首脳は、西アフリカにおけるエボラ出血熱の未曾有の大流行を想起し、この国際社会の安全保障上の脅威に立ち向かう上での両国の緊密な協力について再確認した。サーリーフ大統領は、リベリアにおけるエボラ出血熱との闘いのためのこれまでの取組につき説明するとともに、日本によるエボラ出血熱対策に対するこれまでの支援を高く評価し、謝意を表明した。安倍総理は、リベリアにおけるエボラ出血熱の流行の終息に向けたサーリーフ大統領

のリーダーシップを賞賛した。

6. 両首脳は、今後の取組の焦点は、エボラ出血熱の流行への緊急対応から中長期的な復興に移行しているとの認識を共有した。また、両首脳は、今般のエボラ出血熱の流行により保健システムの脆弱性が明らかになったことを受け、保健システムの再構築及び強化が喫緊の課題であると認識した。サーリーフ大統領は、この観点から、リベリアでは経済安定化・復興計画（ESRP）を策定し、復興に向けた取組を本格化していることを説明した。安倍総理は、エボラ出血熱の流行により甚大な被害を受けた流行国の保健システムの強化及び社会・経済の復興に向け、日本政府が支援を継続することを表明した。これは日本がこれまで推進してきたユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）の促進を含む日本の国際保健政策にも合致するものである。また、安倍総理は、エボラ出血熱の流行により一時中断していた対リベリア経済協力についても既に再開していることを説明するとともに、西アフリカにおけるエボラ出血熱対策のため、これまでに実施した総額約1.8億ドルの支援に加え、保健システム再構築のための技術協力及び国連世界食糧計画（WFP）と連携した食糧援助等のリベリアに対する支援を実施することを説明した。両首脳は、教育と保健への投資は、将来のいかなる大規模な保健危機や病気の流行に対応する能力と強靱性を高める上でも鍵となるであろうことを認識し、共に取り組む決意を表明した。

II. 平和の定着

7. 両首脳は、リベリアにおいて14年にわたる内戦がもたらした甚大な被害について想起し、リベリアにおける平和の定着と内戦からの復興に向けた両国の緊密な協力について再確認した。サーリーフ大統領は、リベリアにおける平和の定着及び地域の安定化に向けたリベリアの取組につき説明するとともに、日本による長年にわたるリベリア和平・復興支援に対し謝意を表明した。安倍総理は、内戦の終結以降リベリアの平和を維持したサーリーフ大統領のリーダーシップを賞賛した。両首脳は、西アフリカ地域の平和と安定を維持、強化する観点から、リベリアの安定は非常に重要であるとの認識を共有し、地域全体の安定に向け今後とも協力関係を強化していくことの重要性を確認した。両首脳は、国連リベリア・ミッション（UNMIL）撤退後のリベリアの治安分野の強化の重要性を認識し、サーリーフ大統領はリベリアの治安分野強化に向けた日本からの支援を呼びかけた。

8. 両首脳は、民主主義や法の支配など、両国が共有し実践する普遍的価値の重要性を確認した。両首脳は、力による一方的な現状変更は認められないとの認識で一致した。この観点から、安倍総理は、日本は積極的平和主義の下、地域や国際社会の平和と安定に、一層積極的な役割を果たしていく考えである旨説明した。これに対しサーリーフ大統領は、戦後日本の平和国家としての貢献を評価するとともに、積極的平和主義の考え方を支持することを表明した。

Ⅲ. 経済関係の強化

9. 両首脳は、リベリアの復興と成長には、民間セクター主導の成長と雇用創出が不可欠であるとの認識を共有し、またリベリアのエボラ出血熱の流行からの復興計画である ESRP も、日本が主導して開催された第5回アフリカ開発会議（TICAD V）も、民間セクターの役割を重視していることを再確認した。サーリーフ大統領は、豊かな天然資源に恵まれた国家であるリベリアに対し、今後日本の企業が投資・進出を進めることを期待する旨表明した。安倍総理は、リベリアは日本企業の今後の進出先として高い潜在力を有すると述べた。両首脳は、今後エボラ出血熱終息後の復興を受け、エボラ出血熱の流行により中断を余儀なくされていた日本企業の進出促進に向けた取組を順次再開していくことへの期待を表明した。サーリーフ大統領は、インフラ開発はリベリアの経済改革と成長の鍵であると述べ、リベリアによるインフラ開発の取組に対する日本政府からの支援の継続を呼びかけた。

Ⅳ. アフリカ開発会議（TICAD）

10. 両首脳は、次回の TICAD 首脳会議が明年初めてアフリカで開催される予定であることを歓迎し、同会議の成功に向けて日本とリベリアの間の協力関係を一層強化していく決意を表明した。安倍総理から、次回 TICAD 首脳会議では、質の高いインフラ投資や人材育成等を通じた人間の安全保障の実現という、日本ならではの貢献を示す考えを表明し、サーリーフ大統領はこれを歓迎した。

Ⅴ. 国際場裡における協力

11. 両首脳は、国連創設70周年となる本年、政府間交渉での文書に基づく交渉の開始を含む安保理改革で具体的な成果が得られるよう協力を強化してい

くことで一致した。安倍総理は、日本の安保理非常任理事国入りへのリベリアの支持に対する謝意を表明した。

12. 両首脳は、国際場裡における諸課題、特に鯨を含む海洋資源の持続可能な利用、日本国民の拉致問題を始めとする北朝鮮の人権問題の解決、ポスト2015年開発アジェンダの推進や、国連において「世界津波の日」を制定することに関し、協力を強化することで一致した。

2015年8月27日 東京